

「能ある鷹は爪を誇せよ」
能力の出し惜みをするな。
意思表示をせよ。自分の個性を
十二分に自覚し、表明できてこ
そ、始めて立派な仕事できる
し、仕事に対する強い自信が、
自己のプライドとなる。

NPC ニュース

昭和 53 年 10 月 (第 148 号)
発行者 西日本プラント工業株式会社
総務部 東 宗利
福岡市中央区渡辺通 2 丁目 1 番 82 号
電話 代表 731-4321
印刷 有限会社 今井印刷所

九州電力新小倉 3 号機

9月29日 営業運転を開始 『対話』によって安全確保

〔新小倉=9月29日〕北九州市小倉北区新港町に建設が進められている九州電力株式会社新小倉発電所 3、4号機（各60万KW）のうち3号機がこのほど完成し、9月29日から営業運転を開始した。

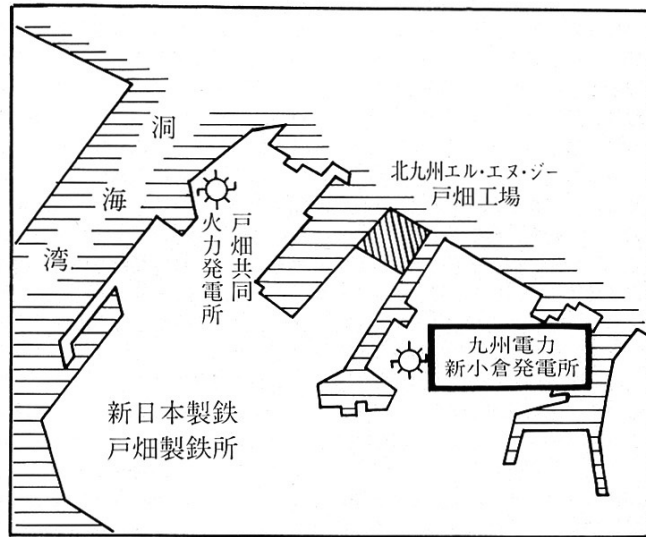
当社は新小倉3号機建設に関してボイラ（蒸発量2,030T/H）据付および電気計装を三菱重工株式会社長崎造船所、タービン・発電機（出力60万KW）据付および電気計装を東芝電気工事株式会社、エアヒーターをガデリウス株式会社、屋外変電設備を三菱電機株式会社、変圧設備を日立プラント建設株式会社、補給水処理装置および復水脱塩装置をオ

ルガノ株式会社、碍子洗浄配管を日本碍子株式会社、堺川トンネル内を含めたLNG輸送管配管を九州電力株式会社および新日本製鉄株式会社からなど、それぞれの客先より多くの工事を受注し、これに対処して51年8月1日新小倉建設所を設置して工事に当たった。

工事は速水所長を総責任者に、田中章二郎、野上末男、近藤不二雄、辻芳孝、河村芳孝、岩尾国光、坂本道則の各所長代理指揮のもと、51年8月6日立柱式、52年6月25日発電機オンベース、7月27日タービン台座式、8月2日ボイラ水圧、10月14日タービン中間検査、53年2月1日

火入れ、3月18日通気と順調な工程で進捗し、その後、試運転作業を続けていた。そして9月26日から使用前官庁検査に入り、4日間にわたって厳しいチェックが行われたが、29日午後3時30分良好な成績で検査を終了し、営業運転を開始した。

新小倉3号機は、既設の1、2号機（各15万6,000KW）、それに現在工事中の4号機とともにLNG（液化天然ガス）専焼火力で、近くの北九州エル・エヌ・ジー株式会社戸畑工場からパイプで送られて来るLNGを燃料とする。4号機の増設工事も順調に進み、すでにボイラ、タービンとも据付工事としては90%を終

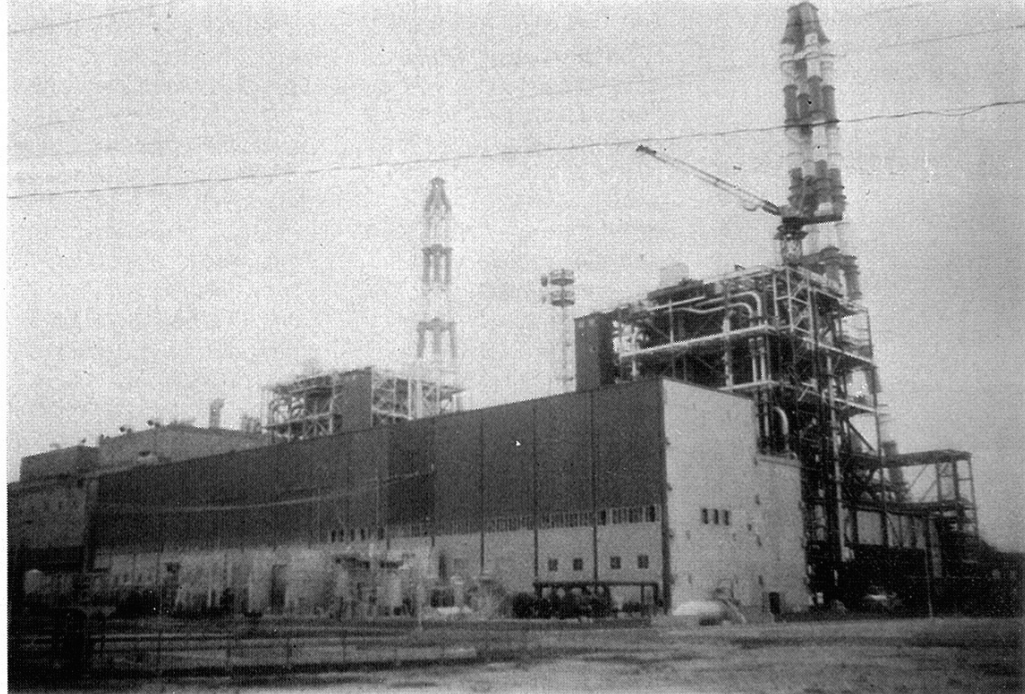


えており、12月1日には火入れが行われる予定である。

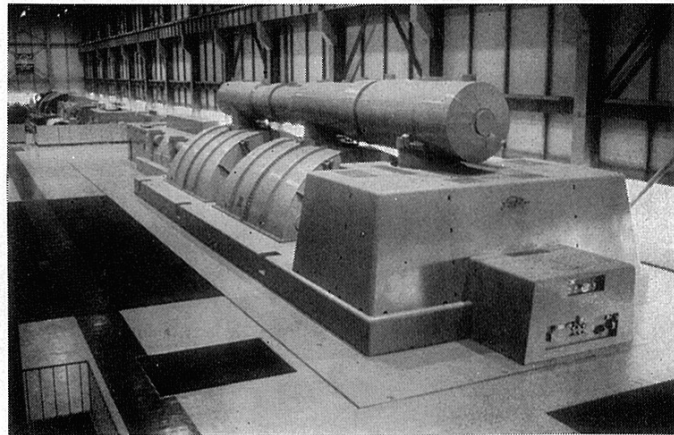
新小倉建設所では、安全最優先をモットーに工事を進めており、9月には無災害労働時間150万時間を突破した。「安全施工にはまずお互いの意思疎通が第一」と、各部門間、個人間の対話を積極的に進めてきたが、これが効果を上げている。毎朝のミーティングはもちろんのこと、常に各責任者クラスが集まって情報交換と意思疎通を図り、セクト主義を無くして、みんなで注意し合う「安全のための職場環境づくり」を進めるとともに、実際の作業面でも、事前に充分打合わせを行い、お

互い納得した上で作業を行っている。「対話によって互いの気心も知れ、人の和という面でも効果があったし工事もスムーズに進めることができた」と速水所長は満足そう。このほか作業環境の整備、作業手順の標準化、作業指示後の確認の徹底など、安全への熱意が実を結んだといえる。

速水所長は「まだまだ改善すべき点は多くある。直すところは早急に直し、3号機の経験を4号機に生かして立派な工事を行いたい。また安全面にも気をゆるめることなく、最後まで災害0としたい」と今後の工事に臨む抱負を語っていた。



九州電力新小倉発電所（左から1号機、2号機、運開した3号機、工事中の4号機）



営業運転を開始した3号タービン・発電機

NPCの技術海外に雄飛

イラク、フィリピンに技術者派遣

当社は、現在、海外工事としてイラク共和国ハルサ発電所1、3号タービン・発電機の据付を行っているが、この建設要員とは別に、いずれも三菱重工株式会社長崎造船所との派遣契約に基づいて、新たにイラクハルサに4名、フィリピンに1名の技術者を派遣した。

まず10月3日、計装指導員として島田純男さん（川内）、中島昇さん（唐津）の2名がイラクに向け出発した。2人は、来年9月30日までの予定で、ハルサ発電所2号ボイラおよびタービンの計装工事指導に当たる。

また、同じハルサ発電所の運転当直長として、10月10日塩月文雄さん、10月17日横山岳夫さん（いずれも建設工事部）が相次いで出発した。2人は、建設が進められている1～4号機の試運転開始から客先引渡しまでの間、運転要員を指導し、運転業務を遂行する。なお当社では、運転当直長として11月中旬にさらに2名の技術者を派遣する予定である。

一方、10月14日には建設工事部の大石宗俊さんが、フィリピン共和国ロス・パノスの地熱発電所建設工事に従事するため出発した。

大石さんは、54年9月末まで、同地熱発電所1、2号プラント（出力各5万5千KW）の計装電気に関する調整試験およびこれに類する設備の据付指導に当たる。



見送りをうけて出発する大石さん

